

西東京市の図書館

～ななつでひとつ～

西東京市内には西武池袋線と西武新宿線、あわせて五つの駅があります。図書館六館のうち四館は、駅周辺の利用に便利な場所にあり、また、ひばりが丘を除く五館は、公民館との併設施設となつています。蔵書数が最も多いのは中央、次いでひばりが丘です。両館とも収容能力の高い書庫を持ち、資料を保存しています。貸出冊数も多く、南北それぞれの地域の利用の中心となっています。(別表参照)

町別登録者数をみると、どの館も主に周辺地域の方に利用されています。生活圏内にある複数の館を利用する方や目的によって館を選んで利用する方も多いためです。保谷駅前とひばりが丘は、近隣区市在住の利用者が多いことが特徴といえます。それぞれの図書館を紹介します。

中央図書館

中央図書館は西東京市図書館の中心館としての役割と、周辺の市民へサービスを提供する地域の図書館としての役割を併せ持っています。

中心館としては、図書館管理システムや都内公共図書館との相互協力事業の管理運営を受け持つことのほか、資料収集や情報提

街にあります。

特色としては、書庫に児童書の研究資料を保存していることがあげられます。その内容は、文学に関する雑誌

や、「赤い鳥」などの復刻版、絶版となつた本、子どもの文化に関する資料など多岐にわたっています。例えば、『シンデレラ』は、ペローとグリムによる再話(採話)が有名ですが、再話者によって『シンデレラ』、『灰かぶり』、『サンドリヨン』と題名が異なるだけでなく、内容にも違いがあります。訳者による差異もあります。それらがそろっているのが比較研究が可能です。卒業論文や読書サークルの研究などに利用されることもあります。

行事にも利用するおはなしコーナーは一部に段差があります。そこに腰かけたり、寝そべったり、コーナーの隅に寄りかかったり、子どもたちは思い思いの格好で本を読んでいます。じゅうたんは緑色で、まるで芝生の上にいるようで、大きな丸い形の掲示板も含めて、居心地のよい空間になっています。

駅から離れていることもあり、主に周辺地域に住む方たちの利用が多いため、地域に根ざした図書館づくりに取り組んでいます。



(別表) 平成21年3月31日現在

館名	図書蔵書数(冊)			1日平均個人貸出冊数(冊)
	一般書	児童書	計	
中央	193353	27929	221282	2090.0
保谷駅前	58184	21421	79605	1521.3
芝久保	50752	38647	89399	669.1
谷戸	63917	18508	82425	898.5
柳沢	89180	24408	113588	1603.0
ひばりが丘	129892	23623	153515	1774.8
新町	8767	6696	15463	121.9
合計	594045	161232	755277	8678.6

供の面においても、六館一分室からなる図書館ネットワークを有効に機能させる上で、重要な役割を担っています。

一つ目は、市民の様々な資料要求に応えるため、文学・芸術・自然科学・工学・社会科学など多様な主題の資料を実用的なものから専門的なものまで幅広く収集することです。西東京市図書館全体の三〇%近くの図書書を所蔵しています。英語、中国語、韓国・朝鮮語などの外国語資料もあります。

二つ目は、利用者の調査・研究、問題解決を支援するレファレンスサービスの充実です。専任職員を配置し、レファレンス資料をそろえて、市民の「知りたい」に応える環境を整えるとともに、地域館での調べものをサポートしています。

谷戸図書館

谷戸図書館の大きな特色は、ハンディキャップサービスの拠点館であることです。担当職員が二名配置され、視覚や身体障害等により図書館利用に困難がある方への様々なサービスを行っています。資料面では、西東京市図書館が所蔵する点字図書とほとんどの録音図書を保管しています。施設面では、対面朗読室、録音室、必要な機器がそろった作業室、研修や会議を行う読書会室があります。これらの設備を使って、点訳・音訳者の方たちが、点訳図書、録音図書、市の広報物の録音テープを製作しています。

また、字が大きくて年配の方にも読みやすい「大活字本」が、全館で所蔵する内の約半分にあたる二二〇〇冊ほどあります。年々利用が増えていくので、今後も充実させていく予定です。一般の方も利用できます。

もう一つの特色は、近くに谷戸小学校と谷戸第二小学校があり、小学生の利用が多いことです。子どもたちが授業の一環として来館し、図書館員が本の読み聞かせやパネルシアター等を行う「図書館の時間」が、市内で最も多く実施されています。

周辺には、いこいの森公園や谷戸せせらぎ公園があり、散歩の途中に立ち寄る親子連れも多く見かけます。

三つ目は、地域行政資料室において、西東京市や周辺地域の資料を収集し、提供することです。他の地域の図書館や情報機関に依存することができない地元の情報の収集は、保存し次に伝えることも含めて重要な業務となっています。

周辺地域にお住まいの方だけでなく、田無庁舎や「きらっと」などの近隣施設を利用する方も多く来館します。貸出冊数も、インターネットによる未所蔵予約も、それぞれ全体の約二五%、約三〇%にのぼり、図書館の利用でも中心館になっています。

保谷駅前図書館

保谷駅前図書館は、昨年六月、市内で十四年ぶりに開館した新しい図書館で、施設面で他館にない特色があります。一つは、開架フロアに



保谷駅前図書館 おはなしコーナー

おはなしコーナーの壁面は、折り紙ポランテアの方たちによって、毎月、季節感のある装飾が施され、子どもたちの興味をひいています。資料を求めて来館する方に加えて、ポランテアの市民の出入りも多いため、「まちの図書館」です。館の特色を生かして、利用者により「やさしい」図書館づくりに努めています。

柳沢図書館

柳沢図書館は、西武柳沢駅南口徒歩二分という便利な場所にあります。公民館と共有の広いロビーには、西東京市保谷手をつなぐ親の会が運営する喫茶コーナー「ふれあい」があり、読書の合間にお茶を飲むことができます。

図書館入口近くのロビーに面した展示棚では、季節や話題のテーマを決め、それにまつ

わる本を紹介しています。児童書、一般書ともに一ヶ月に一回、テーマを変えます。新着書架とともに、このコーナーから本を借りていく方も多いためです。カウンター横には、通路を狭くし



- ① 中央
- ② 保谷駅前
- ③ 芝久保
- ④ 谷戸
- ⑤ 柳沢
- ⑥ ひばりが丘
- ⑦ 新町

ありながら独立した「おはなしコーナー」です。ガラス戸と大きな窓がある開放的なつくりの部屋で、声が外にもれにくく、幼児が一人で室外に出て行く心配もないことから、親子でゆっくり絵本や紙芝居を楽しむことができますと好評です。もう一つは、市内の図書館で初めて設置された「学習室」です。小学生から大学生、社会人、シニアの方など、幅広い年代の方に利用されています。

また、ステアビル四階にあり、駅直結で商業施設と併設されているという立地条件から、勤め帰りや買い物途中の方が利用しやすいよう、平日は午後八時まで、祝日は午後六時まで開館しています。特に、勤労世代の利用に配慮し、資格の取り方や企画書の書き方等の仕事に関する本を集めたビジネス支援コーナーがあります。経済や金融に関する雑誌や証券新聞もそろえています。

他の駅周辺の三館と比べると蔵書数も少なく、規模が小さい図書館ですが、利便性が高く、館内で読書を楽しむ姿も多く見られます。訪れる方に新しい本との出会いを提供できるよう、一つのテーマのもとに蔵書を紹介する展示や探しやすい書棚づくりなどをこころがけています。

芝久保図書館

芝久保図書館は小平市に近い住宅利用者の方の年齢層をみると、他館に比べて、六十代以上の方の割合が高くなっています。この点も考慮して、資料面では、利用が伸びている活字の大きな時代小説の文庫本を増やしています。

また、サービスエリアの市南東部にある小中学校、保育園、児童館などの子どもたちが来館して本を借りていくので、団体貸出が市内で最も多く、全体の二九%を占めています。館内は窓が大きく、書架の間隔も広いので、明るく、ゆったりとした空間です。イスに腰をおろして本や雑誌を読む方も多く見かけます。施設の長所を生かし、利用者にとって居心地のよい図書館をめざしています。